

本部 令和5年度 事業計画書

本部 令和5年度 事業報告書

令和4年度総務室長 清水良憲

令和5年度総務室長 清水良憲

<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画を浸透させ、短期事業計画の実行及び、目標達成に努める。</li> <li>・職員の資質向上とともに、処遇改善を図る。</li> </ul>	<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画を浸透させ、短期事業計画の実行及び、目標達成に努める。</li> <li>・職員の資質向上とともに、処遇改善を図る。</li> </ul>
---	---

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
新卒者の確保、支援員の質の向上。	専門性の高いサービスを提供し、地域から必要とされより信頼される法人になる。	①学生に法人を知ってもらえるよう、見学・職場体験・ボランティア等を延べ20名以上受け入れる。また、IT委員会と連携し魅力的な広告やHPの作成をする。 ②社会福祉士・介護福祉士・サービス管理責任者・社会福祉主任任用資格等の受講を促し取得率を増やしていくことで専門性を高める。	令和5年10月 令和6年3月	室長 室長	補佐 補佐	令和6年度新卒内定者 2名 令和5年度職員中途採用者2名 見学者35名 職場体験14名(仁愛女子短期大学生) ボランティア延べ24名 国家資格の取得者 0名	①法人の認知度が低く、求人票を見てもらう機会や応募が少ない。 ②国家資格の受験を全職員に呼びかけているが、令和5年度は受験者がいなかった。	各就職フェアのイベントの参加し、見学者の受入人数を増やす。R5.10.1から施行した職員紹介制度の周知を従業員に行う。 資格を取得することで等級が上がること等のメリットを周知し、受験者を増やしていく。
中期計画に基づき、短期事業計画(年度の事業計画)を達成させていく。	やるべきことや方向性を明確にし、全職員がそれに向かい行動できるようにする。	③各事業所が中期計画・短期事業計画に基づいた具体的な行動ができるよう説明及び巡回を行う。 ④四半期毎に、目標に対して進捗できているか把握し、必要に応じ、各事業所の実行計画を見直す。	令和6年3月 令和6年3月	室長 室長	補佐 補佐	職員から広く意見を聴取し、法人の現状から課題を抽出し、中期計画の策定をした。	③中期計画の策定が年度末となってしまったため、各事業所職員への説明巡回ができていない。 ④実績と予算を比較し、特に差異があるところについて、各事業所から聞き取りを行ったが、実行計画に見直しには至っていない。	中期計画をもとに、各事業所へ説明するため巡回する。 来年度も引き続き実績を確認し、収支の増減箇所を把握・周知し、原因究明や対策を検討することで、改善につなげる。
環境整備や処遇改善のための財源の確保。	計画的な設備整備や処遇改善を行う。	⑤全就労支援事業所の収入アップのための営業、販促活動を目標を定め計画的に行う。 ⑥各事業所で提供しているサービス種及び定員を見直し、各特別支援学校・相談支援事業所に向き、各事業所の魅力を伝えていくことにより利用者確保を行う。	令和5年12月 令和6年3月	室長 室長	補佐 補佐	令和6年度より藤島高等学校の学生食堂の受託、公立小浜病院の調理補助業務を引き受ける。環境整備の一つとして、パソコン等のICT導入モデル事業について申請し、決定となった。小浜事業所では日本財団車両の助成金の申請し決定となった。	⑤令和6年度4月より各新規受託業務を開始し、小浜病院に関しては人員確保、藤島高等学校では、売り上げの目標達成が課題。 ⑥各特別支援学校や相談支援事業所に出向く際に、当法人の魅力が伝わる資料が作成できていない。	各新規事業を行うための人員の確保及び従業員の資質向上に努める。 各サービスの特徴を示した資料の作成をサービス管理責任者連絡会及びIT委員会にて作成し、特別支援学校や相談支援員へ魅力を伝える。

スケジュール													スケジュールに対する結果													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①	行推進委員と協力し、広告資料の作成を行う	行推進委員と協力し、広告資料の作成を行う	各大学・専門学校に情報提供の営業に行く	各高校にあいさつ回り、情報提供の営業に行く	専門学校・高校から実習の受入を行う	専門学校・高校から実習の受入を行う							①	各高校へあいさつまわりをした	福祉フェアの参加	高校挨拶まわり	就職フェアの参加、見学者対応		人材研修、ハローワークの方の意見を参考にしやすい求人票の作成						丸岡地区に折込チラシの配	
②													②		全職員に所長を通してよびかけた			資格取得のメリットについて説明							全職員に所長を通してよびかけた	
③			各事業所巡回		各事業所巡回		各事業所巡回		各事業所巡回		各事業所巡回		③	法人の現状から課題を抽出した	職員から意見聴取		意見のとりまとめ								中期計画策定委員会の開催	中期計画策定委員会にて中期経営計画の策定
④													④		所長会議にて進捗状況の確認			所長会議にて進捗状況の確認							所長会議にて進捗状況の確認	
⑤													⑤			新規作業の打ち合わせ・既存作業の単価交渉			藤島高等学校との交渉 小浜病院との交渉						委託先として決定	シユミレーションの開始
⑥	各所長・本部と、特別支援学校へあいさつまわり	期間相談支援事業所へ挨拶まわり		各所長・本部と、特別支援学校へあいさつまわり	期間相談支援事業所へ挨拶まわり		各所長・本部と、特別支援学校へあいさつまわり	期間相談支援事業所へ挨拶まわり		各所長・本部と、特別支援学校へあいさつまわり	期間相談支援事業所へ挨拶まわり		⑥	放課後等デイサービス検討会議の実施	施設見学	サービス管理責任者連絡会にて周知			サービス管理責任者連絡会にて、特徴を示した資料を作成中						サービス管理責任者連絡会にて、特徴を示した資料を作成中	

福井事業所 令和5年度 事業計画書

令和4年度所長 松浦 満夫

福井事業所 令和5年度 事業報告書

令和5年度所長 松浦 満夫

方針

- 多様な利用者から選ばれ、地域や家族から必要とされる福祉施設をめざす
- 職員が自己研鑽と日々の個別支援向上に努め、「ここで永く働きたい」と思える職場創りに努める

方針

- 多様な利用者から選ばれ、地域や家族から必要とされる福祉施設をめざす
- 職員が自己研鑽と日々の個別支援向上に努め、「ここで永く働きたい」と思える職場創りに努める

事業計画の内容		具体的手段		責任者
目標	目的	実行計画	期限	
【就労継続支援A型】 売上を前年同月比5%向上。(月100千円up) 年度内に丸岡南中事業所との統合を進める。	①弁当事業の新商品追加と販売促進により、収益改善を進める。 ②統合により社員・職員の質の向上を図る。	① 昼食弁当を往に、四半期毎に弁当関連の2品目以上の商品開発(昼新メニュー、弁当、夕食おかず、仕出し弁当等)を進め、弁当販売額をベースに販売促進を行う。毎月、進捗管理と再評価を行い、前年同月比売上5%アップを達成する。	令和5年8月	副所長 サビ管
		② 本部・丸岡南中事業所と連携して、段階的に統合を進めて8月末に完了する。(利用者の異動等を6月までに決定。販売先の精査、設備機材の移設を7月までに決定。8月中に最終実施する。)	令和5年8月	
【生活介護】(日中含む) 新規利用者6名確保 利用率の向上(前年同月比5%) 工賃支給対象者増(14名→20名)	③ 社会参加を念頭に、生産活動・表現活動の向上により、事業所の特色を明確にする。 ④ 個別支援計画の充実を図る。	③ 受注作業、木工作业等の生産活動および絵画等の表現活動では、職員配置に応じた活動時間割を組み、作業の安定と新企画の作品づくりを進める。活動参加に応じた工賃支給対象者を増やす。活動展開をPRして新規利用確保につなげる。	令和6年3月	副所長 サビ管
		④ 新規利用者を含めて、ひとりひとりの生活面での日常的動作の支援、活動内容の支援を全面的に見直し利用者ひとり一人の生活力ややりがいの充実を図る。	令和6年3月	
【グループホーム】 新規利用者1名の確保 全利用者の個別支援再評価と行動プランの作成実行。(全利用者3か月更新)	⑤ 定員確保につなげて、収支の改善を図る。 ⑥ 利用者が将来の目的をもって日々過ごせるよう、行動プランに沿って支援を進める。	⑤ 法人内事業所、相談事業所との情報交換や連携、アピールにより、自宅からの自立をめざす利用者や家族の相談につなげていく。体験利用を積み重ねて正式な利用につなげる。(新規利用1名)	令和6年3月	サビ管 支援員
		⑥ 全利用者の支援目標を元に、個人毎の具体的な行動プランを作成する。(掃除洗濯、金銭管理の生活力のアップ、健康活動、調理経験、芸術活動、免許取得等)。スモールステップで本人と共に成果確認しながら、見直しと実行を繰り返す。	令和6年3月	
【事業所全体】 福井事業所の中期計画の作成と実行。	⑦ A型事業所の統合。(事業廃止と丸岡南中への移行) 日中一時の廃止と放課後等デイサービスの開設。	⑦ A型の事業所再編及び設備環境整備を検討する。日中一時支援事業の放課後等デイサービスへの移行を進める。令和6年度に向けて、本部及び相談事業と連携して、事業所再編整備と特色ある放課後等デイ事業準備を進める。(生活介護の単独20名定員変更を含む)	令和6年3月	副所長 サビ管

事業報告		今後の取り組み
目標に対する結果	課題	
【就労継続支援A型】 丸岡南中事業所へ移管完了。継続が必要な事業については、完了とする。	①②厨房機器について使用できそうなものについては食品衛生委員会と打ち合わせし移設なども完了。その他の不用機器については撤去済。	
【生活介護】(日中含む) 新規利用者目標6名 結果 新卒3名、新規利用者1名 計4名。 利用率 R4 12.5人/月 R5 14.78人/月 目標5%UP 結果15.4%UPとなる。 工賃支給対象者 令和4年度 14名、 目標対象者20名 結果20名となる。	③作業種の開拓が課題。 作業だけに絞らず、活動の内容を作品作り、提案、展示といったものを意識し、活動する。 ④今後も保護者との話し合いの機会(年2回以上)を持ち、本人と保護者の意向を踏まえた支援計画を作成し、支援を行う。	生産活動につながる企画やアイデア、情報収集などを行い、活動に盛り込むなどして充実を図っていく。 面談時に普段の様子についていい事、よくない事も含め伝え、個別支援計画の見直し部分を実行に実行する。
【グループホーム】 年初5名から新規1名、計6名となったが、年度途中で3名退所となり、年度末の在籍数3名の利用となる。 全利用者に対して個別支援計画の見直しを行った。	⑤高齢化に適したサービスへの移行もあり、今後も利用者が減少傾向にある。 ⑥本人の希望や今後の展望についての課題を洗い出したが、継続的な利用が本人に対して適切なサービスかどうかという利用者もあり、個別の課題解決が今後の課題。	事業の継続、転換も含めて今後の運営に関して検討していく。 希望などの目標を明確化していき、適切なサービスを提供できるように支援していく。
【事業所全体】 A型の事業を8月末で廃止。 日中一時事業を3月末で廃止。令和6年4月から放課後等デイサービスの開設を行った。	⑦日中一時の廃止。放課後等デイサービスの開所に向けての改装工事完了。 利用者のみらいにつながる体験型プログラムの提供をベースに、法人内の強みを活かしたプログラムの作成。元厨房を利用した体験なども含めて、体験プランを増やしていく。	他の放課後等デイサービスにないサービスの提供。将来につながる活動が少ないという声もあるため、卒業後の進路に関わるプログラムを提供する事を事業所の特長化などを行っていく。保護者や相談員の生の声を集めていくことも同時に行っていく。

スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	開発試作(2品目)	宣伝強化 販促活動	販促活動 再評価	開発試作(2品目)	宣伝強化 販促活動	販促活動 再評価						
②	移行準備	移行準備	移行準備	移行準備	完了							
③	活動見直し	改善	改善	活動見直し	改善	改善	活動見直し	改善	改善	活動見直し	改善	改善
④	計画⇒改善	支援実行 改善評価	再検討⇒改善	支援実行 改善評価	計画⇒改善	支援実行 改善評価	計画⇒改善	支援実行 改善評価	計画⇒改善	支援実行 改善評価	計画⇒改善	支援実行 改善評価
⑤	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行
⑥	行動プラン 作成実施	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	個別支援 計画見直し	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	行動プラン 再評価	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	個別支援 計画見直し	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)
⑦	検討	検討	再評価	具体案 検討	具体案 検討	再評価	具体案 検討	具体案 検討	再評価	実施 準備	実施 準備	実施 準備

スケジュールに対する結果

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	開発試作(2品目)	宣伝強化 販促活動	販促活動 再評価	販製製造 移行活動	顧客確認							
②	移行準備	移行準備	移行準備	移行期間	移行完了							
③	活動見直し	改善	改善	作業種 検討	活動 検討	実践 振り返り	活動見直し	改善	改善	活動見直し	改善	改善
④	計画⇒改善	支援実行 改善評価	再検討⇒改善	計画 面談			計画⇒改善	支援実行 改善	計画⇒改善	支援実行 改善評価	計画⇒改善	支援実行 改善評価
⑤	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行	連携 相談活動	実行
⑥	個別支援 計画見直し	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	個別支援 計画見直し	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	行動プラン 再評価	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)	個別支援 計画見直し	個別支援 具体的行動	成果確認 (全員確認)
⑦	具体案 検討	再評価	再評価	移行完了 新事業 検討	新事業 検討	具体的 内容検討	新規事業 具体化	見直し プラン 検討	具体化	実施 準備	実施 準備	実施 準備

若狭事業所 令和5年度 事業計画書

令和4年度所長 早佐古 達也

若狭事業所 令和5年度 事業報告書

令和5年度所長 早佐古 達也

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者それぞれの適性に合ったサービスを提供する</li> <li>安定的に事業運営ができるよう、各部門の課題解決に部門にとらわれず全職員で取り組む</li> </ul>
----	---

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者それぞれの適性に合ったサービスを提供する</li> <li>安定的に事業運営ができるよう、各部門の課題解決に部門にとらわれず全職員で取り組む</li> </ul>
----	---

事業計画の内容		具体的手段		責任者	事業報告			
目標	目的	実行計画	期限		正	副	目標に対する結果	課題
【就労継続支援A型】 就労支援収支の黒字化	長期的に安定した運営のため	①社員の適性に合ったサービスへ移行及びB型への作業の移行を行う。 ・バリア若狭清掃業務をA型→B型等 ・A型→B型へ5名利用者移行	令和5年10月	主任	サブ 主管	【就労継続支援A型】 就労支援収支△6,839千円	①ペーカリー・コンビニ部門の赤字が続いている	・現在している作業の精査 ・新規作業開始 ・B型移行予定保護者と面談を継続する
【就労継続支援B型】 新規利用者2名獲得 【現員15/定員20】	定員充足	②作業種を新たに増やし、工賃の確保と作業内容を充実していくことで定員充足を図る。 ・売上2,500千円増、目標平均工賃22,000円→25,000円	令和6年3月	サブ 主管	支援 員	【就労継続支援B型】 新規利用契約0名(A型から2名、復帰1名) 【現員16/定員20】	②目標工賃達成率100%工賃実績額 25,303円 特別支援学校からの新規利用の確保ができていない	・工賃向上及び利用者獲得のため作業種を増やす ・製塩部門の商品安定供給
【生活介護】 新規利用者2名獲得 【現員14/定員13】	定員充足	③活動プログラムを全面的に見直し、選ばれるプログラムにしていき、相談支援事業所への営業活動を行う。また、特別支援学校の実習をとおして次年度の新規利用者の獲得を目指す。(実習受入目標2名)	令和6年3月	サブ 主管	支援 員	【生活介護】 新規利用者3名獲得 【現員17/定員13】	③特別支援学校の前期実習で1名実習利用あり。後期は実習者0名	・理学療法士等からのアドバイスを受け専門的プログラムの構築
【日中一時 障がい特性に合わせた 個別活動の構造化】	他法人日中一時支援との差別化	④平時の活動の見直しを行い、新規活動を3種類/年取り入れる。所外活動で文化芸術に触れる。地元等の行事を観覧したり体験する。(3回/年以上)また、平日平均3名利用を目指し、放課後デイへの移行を検討する。	令和5年9月	支援 員	支援 員	【日中一時】 平時の利用者少なく個別活動の構造化をすることができていない	④平時の活動は見直せていない	・夏季休暇の利用者確保 ・放課後等デイサービス開設に向けて職員の確保
【共同生活援助】 長期計画の作成	グループホーム再編	⑤保護者面談時に生活面における今後10年の予定を立てる。グループホーム2拠点の統合・再編の検討をする。	令和6年3月	サブ 主管	支援 員	【共同生活援助】 今後の生活についての意向確認を行ったが、長期計画の作成にまでは至っていない	⑤利用者減少に伴い、グループホーム2拠点の統合、再編について検討する	本人、保護者との面談、意向確認の継続
【相談支援】 新規契約者数5件	給付費収入増	⑥基幹相談支援事業所と連携し新規利用者を獲得する。	令和5年12月	相談 支援 主任	主任	【相談支援】 新規利用者4件	⑥卒園によりサービス利用しなくなるケース等で契約終了者が3名おり、契約者数は1名増のみとなった	・行政や他法人施設や特別支援学校との連携

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	保護者説明会	保護者説明会	バリア文化課と協議	A型・B型合同会議	B型でバリア清掃試験運用	A型・B型合同会議	バリア清掃B型へ移行						①		バリア文化課と協議	保護者懇談		バリア文化課と協議			A型・B型合同会議	バリア文化課と協議	企業と新規作業について協議	企業と新規作業について協議	新規作業獲得
②	地域企業に営業	地域企業に営業	相談事業所訪問	相談事業所訪問	相談事業所訪問			地域企業に営業	地域企業に営業	相談事業所訪問	相談事業所訪問	相談事業所訪問	②	地域企業に営業	作業受託1件確保	新規利用1名受け入れ	相談事業所訪問				地域企業に営業				バリア清掃についてバリア文化課と協議
③	プログラム検討会議	プログラム検討会議	プログラム確定	新プログラムで活動	新プログラムで活動	相談事業所訪問				相談事業所訪問		相談事業所訪問	③	プログラム検討会議	新規利用者1名利用開始	新規利用者1名利用開始	プログラム検討会議				相談事業所訪問		相談事業所訪問		相談事業所訪問
④		行事・施設観覧	情報収集	新規活動の導入	行事・施設観覧	情報収集	行事・施設観覧	新規活動の導入	新規活動の導入	行事・施設観覧			④		情報収集	情報収集サマースクール計画作成	サマースクール開催		他事業所、行政、相談と新規利用調整			ウインターズクール開催	他法人放デイと協議		自立支援協議会参加
⑤	面談4名行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	行政・施設訪問	行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	⑤	個別面談4名	個別面談2名	個別面談4名担当者会議2名		自立支援協議会参加	個別面談2名	面談4名行政・施設訪問	面談4名行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問	計画作成行政・施設訪問
⑥	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	情報収集	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(1名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(2名)	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者確保(2名)	⑥	学校行政訪問	基幹相談支援訪問	情報収集	自立支援協議会参加	基幹相談・町福祉課訪問		学校行政訪問	基幹相談支援訪問	利用者2名確保	基幹相談支援訪問	利用者2名確保	

丸岡南中事業所 令和5年度 事業計画書

丸岡南中事業所 令和5年度 事業報告書

令和4年度所長 幅口岳晴

令和5年度所長 幅口岳晴

<p>方針 ・就労継続支援A型事業を安定して継続して行けるよう、給食提供事業に適した利用者での事業運営に切り変えて行く。 ・事業所全体で共同生活援助の給付費増を目指す。</p>	<p>方針 ・就労継続支援A型事業を安定して継続して行けるよう、給食提供事業に適した利用者での事業運営に切り変えて行く。 ・事業所全体で共同生活援助の給付費増を目指す。</p>
--	--

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	サビ管	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】 就労事業の黒字化 ・利用者2名サービス移行 ・新規社員1名雇用 ・調理師免許取得利用者2名以上 ・夏季休暇時の売上増	就労継続支援A型として事業を継続して行っていくため	①作業能力の低い社員や体力に衰えが見られる社員を2名を面談や他のサービスの見学、実習を重ね計画的に他のサービスへ移行する。	令和5年9月	サビ管	支援員	①(目標)2名移行 (結果)2名移行	①作業能力の向上も重要だが、維持が課題。以前出来ていた事が出来なくなっている方も多い。	・目標の2名移行は達成。このまま利用者の入れ替え、適性配置を進めていく。
		②利用者が調理の中心となれるように、将来調理師資格を取得できる能力を有する利用者を1名以上確保する。ハローワークや学校などに求人募集を行う。	令和6年3月	支援員	主任	②(目標)新規利用者1名雇用 (結果)新規利用者0名雇用	②新規利用者獲得が難しい状態。ハローワークふくいでも求職者は多いが、通勤手段が無く断念される方も多いとの事。	・継続してハローワーク担当者、基幹相談、福祉課、特別支援学校と情報交換を行う。
		③事業所内での勉強会や講習会を実施して利用者の調理師免許取得を目指す。目標を2名以上として利用者の能力向上を目指す。(令和4年度0名)	令和5年10月	サビ管	支援員	③(目標)有資格者2名 (結果)調理師試験2名不合格	③勉強方法、理解力が課題。また、来年度へ向けての振り返り、スケジュール調整が必要。	・来年度に向けて勉強方法、スケジュール調整を行う。食品衛生責任者養成講習会受講も検討する。
		④学校の夏季休暇時に従来のメニューに加え新作メニュー2品を開発して販売する。従来の顧客に加えスポット販売も行う。(令和4年度:300,000円/期間-450,000円/期間)	令和5年8月	支援員	主任	④(目標)450,000円/期間 (結果)733,000円/期間	④目標は達成したが、当事業の業務効率化が課題。また、売上増のための販路拡大も必要。	・販路拡大に向け計画を立て、来年度の事業計画に反映させる。
【共同生活援助】 新規利用者1名獲得	定員充足率の向上 給付費収入増を行うため	⑤まち中ホームにおいて相談支援事業所と連携し、見学者を集める事で利用者を1名以上確保する。また、定員充足が見込めない場合は男子寮へや廃止等も変更も検討する。	令和5年9月	サビ管	世話人	【共同生活援助】 (目標)新規利用者1名雇用 (結果)新規利用者0名雇用	⑤女性GH利用者1名が退寮予定、利用者が2名となる。女性寮での運営として継続、廃止、男性寮のみでの検討。	・法人本部と検討を行い、方向性を決める。 ・地域の相談支援専門員と面談をし、営業をしていく。

スケジュール													スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	面談・見学	実習	1名移行	面談・見学	実習	1名移行							①	実習	面談	実習 1名移行	1名見学	3名見学 2名実習	1名実習		1名実習	1名移行			
②	ハローワーク訪問・求人募集			見学・実習			面接1名雇用			ハローワーク訪問・求人募集			②	ハローワーク訪問			2名見学 受入	1名見学 受入	基幹相談 支援セン ター訪問	ハローワー クふくい訪 問	基幹相談 支援セン ター訪問	2名見学 受入	ハローワー クふくい訪 問	ハローワー クふくい訪 問	
③	自学・調理師免許講習会参加			自学・事業所内勉強会			調理免許 取得						③	自学・調理師免許講習会参加			自学	個別指 導	講習会 申込	試験		合格発表			
④	新作商品 開発 会議	新作商品 開発 会議	新作 商品完成	チラシ作成 各施設営業	商品販売	商品開発 会議 商品改良	商品開発 会議 商品改良	チラシ作成 各施設営業	商品販売	商品開発 会議 商品改良	チラシ作成 各施設営業	商品販売	④	新作商品 開発 検討会議			チラシ作 成	商品販売、 スポット販 売、并当事 業開始				新作商品 開発			
⑤	面談・見 学	面談・見 学	面談・見 学	体験利用	体験利用	契約し 1名契約	募集継続 1名利用 開始	男子寮変 更検討	男子寮変 更、廃止 の検討	面談・見 学	面談・見 学	面談・見 学	⑤	面談	面談・見 学	委託相談支援事業所訪問・相 談		委託相談支援事業所訪問・相 談		委託相談支援事業所訪問・相 談					

おくえつ事業所 令和5年度 事業計画書

令和4年度所長 山品 光央

おくえつ事業所 令和5年度 事業報告書

令和5年度所長 山品 光央

方針

- ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。
- ・利用者各々の特性や特徴を活かせる作業・活動の場の提供を行う。

方針

- ・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。
- ・利用者各々の特性や特徴を活かせる作業・活動の場の提供を行う。

事業計画の内容		具体的手段		責任者	
目標	目的	実行計画	期限	正	副
【生活介護】 新規利用者1名確保 (目標) 現員7名→8名	安定した事業運営ができるよう定員充足率を向上させる	①おくえつ事業所の生活介護の特色である作業プログラムを取り入れ工賃支給している実績を地域の相談支援専門員などにアピールし、新規利用者の確保を行っていく。 ②B型は作業種などを増やすことで個別の能力に合わせた作業提供ができるようにして受け入れの幅を広げる。生活介護は、他事業所で適応できない利用者の受け入れ成功例もあることから、個々の1日の基本スケジュールを基に作業や活動を行い情緒の安定を図る。その中で日々の個々の状況を見ながら活動内容を替えるよう柔軟な対応を行っていく。	令和6年3月	サビ管	支援員
【就労継続支援B型】 新規利用者1名確保 (目標) 現員9名→10名				サビ管	支援員
【就労継続支援B型】 収益率の高い作業への移行率1件若しくは新規作業の確保 (目標) 平均工賃 20,000円	平均工賃UPを行うための収入元を確保する。	③現在主となっている自動車部品の組付け作業は、委託元の状況によって収入が安定しないことから、現在施設内作業で行っているレンタルコミック加工作業をより高い委託料を得られる施設外作業へ移行できるように委託元と交渉を行っていく。他作業においてもより収益率の高い作業へ移行していく。(令和4年度平均工賃16,290円)	令和6年3月	指目標 標準 員 工 賃 達 成	主任
【就労継続支援A型】 (目標) 商品化1品以上	おくえつ事業所自慢の商品を作り収益の改善を行う。	④豆乳プリンの商品化を行い、イベント販売や他事業所のルート販売などの販売を行う。並行して、継続的に販売できるように現在豆乳プリン(プレーン)1種から2種増の3種への商品開発および商品の品質の改良などを行っていく。道の駅などの店舗販売につなげる。	令和6年3月	指 導 金 向 上 達 成	支 援 員
【共同生活援助】 利用率の向上 (目標) R4 4.9名→5.1名	日中活動との連携を強化し、情報を共有して統一した支援を行い利用率向上を図り収入を確保する。	⑤令和4年度は、情緒不安定や病気で長期入院者2名いたことから、健康面および精神面でのサポートを強化するため、3月に1回GHの支援員と日中活動の支援員との合同支援会議を開催し、長期でのGH利用がなくならないようにしていき、年間平均利用者数5.1名を達成する。	令和6年3月	支 援 員	サ ビ 管

事業報告		
目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 (目標) 新規利用者1名確保 (結果) 0名【未達成】	①新規利用者および新卒利用者がいない。特別支援学校からの実習がない。	特別支援学校と連携を取り、実習の受け入れなどを積極的に行っていく。
【就労継続支援B型】 (目標) 新規利用者1名確保 (結果) 0名【未達成】	②新規利用者および新卒利用者がいない	令和5年度、特別支援学校2年生の実習があったので、令和6年度に再度実習などを行ってもらえるよう学校と連携を図っていく。
【就労継続支援B型】 (目標) 高収益率作業移行1件若しくは新規作業確保 平均工賃 20,000円 (結果) 平均工賃4-3月 21,132円【達成】	③昨年の平均工賃16,290円から21,132円とUPしたが、中期計画の目標工賃45,000円を達成するには、受託作業の見直しなどをおこなっていく必要がある。	事業所の事業の見直しや新たな受託作業の転換などを行っていく。
【就労継続支援A型】 (目標) 商品化1品以上 (結果) 1品 イベント販売のみ【未達成】	④豆乳プリンイベントのみでの販売となり、それ以外の場所での販売ができていない	3月中旬から新規でグスリのアオキ(勝山旭店)と取引開始。そこでの販売が可能であるため、販売を行っていく。
【共同生活援助】 (目標) R4 4.9名→5.1名 (結果) 4-3月 5.0名【未達成】	⑤持病のある利用者の入院回数が増えたり、情緒不安定な利用者があるなど支援度が高くなってきている。	利用者の健康管理や支援体制や支援内容の見直しを行っていく。

スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	特別支援学校学校訪問	自立支援協議会空き情報提供	相談支援専門員への情報提供強化期間	特別支援学校学校訪問	自立支援協議会空き情報提供	相談支援専門員への情報提供強化期間	特別支援学校学校訪問	自立支援協議会空き情報提供	相談支援専門員への情報提供強化期間	特別支援学校学校訪問	自立支援協議会空き情報提供	相談支援専門員への情報提供強化期間
②	支援体制と環境整備		振り返り見直し	支援体制と環境整備		振り返り見直し	支援体制と環境整備		振り返り見直し	支援体制と環境整備		振り返り見直し
③	移行準備 試行期間	施設外作業 移行	情報収集 事業所検討	見学 試行期間	情報収集 事業所検討	見学 試行期間	情報収集 事業所検討	見学 試行期間	情報収集 事業所検討	見学 試行期間	情報収集 事業所検討	情報収集 事業所検討
④	新商品の提案	新商品の試作	商品化に伴う品質の検査等	販売へ向けての準備	新商品1種 販売開始	イベント 販売 1件 外販	イベント 販売 1件 外販	外販 新商品1種 販売開始	イベント 販売 1件 外販	イベント 販売 1件 外販	イベント 販売 1件 外販	外販
⑤	GH支援会議	支援・利用者状況確認	合同支援会議	GH支援会議	支援・利用者状況確認	合同支援会議	GH支援会議	支援・利用者状況確認	合同支援会議	GH支援会議	支援・利用者状況確認	合同支援会議

スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	・異種特別支援学校への訪問 相談支援専門員にモニタリング時等の来所時に情報提供を行った			・異種特別支援学校から8月にB型の実習生を受け入れ。その後、連絡の先生と情報交換を実施。			・相談支援専門員を通して、1件の利用希望者の問い合わせがあり、今後見学などの調整を行う。			12月に利用希望者については、利用サービス等の変更があり、見学に至らず。		
②	・施設外作業の確保 ・B型の施設外作業に対する振り返りなどを実施			・施設外作業への課題の改善などに取り組む ・おくえつ特別支援学校から実習生3名受け入れ			・相談支援専門員を通して、2件の問い合わせがある。1名は、見学があるが利用につながらなかった。			・施設外では、作業時間の調整などを行い、できる限り作業に取り組める環境を作り、全体の作業時間の確保に務めた		
③	・4月24日～28日まで実習を実施 ・5月9日よりレンタルコミック施設外作業へ移行			・洗浄作業の単価交渉へ向けて検討 ・レンタルコミック施設外作業へ利用者全員ができるよう体験参加などを実施し、9名中9名が作業に参加できた。			・新たな作業の検討は、利用者の作業能力から新たに増やすことが難しく、作業時間維持と向上に取り組んでいく。			企業から1件問い合わせあり 今後、作業内容や見学等を行い、受託の検討を行う。		
④	豆乳プリン改良についての助言を丸岡南中事業所と丹南事業所から受け、改良試作を行っている			豆乳プリンに使用していたゼラチンからアガーへ変更。生クリーム量の割合変更などを行い試作している。			12月に豆乳プリンの成分検査および菌検査などを実施した。消費期限5日での販売が可能となる。			豆乳プリンを1月の年の市で販売を行う。		
⑤	・GH支援会議実施(4/21) ・合同支援会議は、主治医とのケア会議実施後の開催(6/27)し、7月初旬に開支援会議を実施。(9/22日実施)			・主治医とカウンセラーとのケア会議で助言をいただき、それに基づき合同支援会議を実施。(9/22日実施)			カウンセリングの先生との連携し、支援方法の助言を受け、日中支援のサビ管や支援員と共有して支援を行う。			カウンセラーに対応方法などの助言をいただき、日中支援とGHで情報共有を行った。		

あわら事業所 令和5年度 事業計画書

あわら事業所 令和5年度 事業報告書

令和4年度所長 幅口岳晴

令和5年度所長 幅口 岳晴

<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者確保・収益性向上に取り組む。</li> <li>・利用者のニーズと障害特性にもとづいた質の高い福祉サービスの提供。</li> </ul>	<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的に安定した事業所運営を目指し、利用者の確保・事業の収益性向上に取り組む。</li> <li>・利用者の権利擁護に努め、利用者ニーズに基づいた柔軟で質の高いサービスの提供。</li> </ul>
---	---

事業計画の内容		具体的手段		責任者		事業報告		
目標	目的	実行計画	期限	正	副	目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【就労継続支援A型】新規作業の獲得 紙線売上プラス500,000円	収入の安定・確保 作業の統廃合	①リサイクル作業・空き缶作業と並行して行える新規作業の獲得及び収入の確保。収入の見合わない回収作業の廃止・縮小を行う。 紙線受託作業：スポット作業売上240,000円/年以上と新規作業1種以上獲得。不良率ゼロと納期の厳守、営業を継続。	令和6年 3月	支 援 員	支 援 員	【就労継続支援A型】(目標)新規作業獲得(結果)1件 (目標)福井紙線売上プラス500,000円(結果)7,316,418円【達成】	①受注量に対して体制が整わない時がある。	受注量に合わせた人員の配置ができるよう銅線皮むき作業継続と誰でもどの作業もできる人材育成を行い、生産性向上を図る。
【就労継続支援B型】新規利用者2名の確保	令和5年度登録者数18名(現在16名)	②丸岡中・あわら事業所A型利用が難しい利用者に対するB型移行の実施。定員20名を目指し、登録者数の増員を図る。対象事業所と連携し、本人に適したサービスの提案・見学・体験を行い利用に繋げていく。	令和5年 10月	サ ビ 管	支 援 員	【就労継続支援B型】(目標)新規利用者2名確保(結果)1名【未達成】	②利用者ニーズの把握と永く利用したいと思える事業所づくり。	利用者の年齢や障がいの程度に合わせた作業環境を整え、利用者個々の強みに合わせた作業種目の提供を行う。
【就労継続支援B型】事業活動収入プラス600,000円	利用者平均工賃25,000円の維持(現在) 新規利用者の工賃確保(25,000円×2名)	③箱折受託作業の収入を2倍(約7万円⇒14万円/月)にするため、受託先への営業を行う。受注量増加の対応として従事可能な利用者を育成し、新規利用者2名の工賃を確保していく。 ④軍手の研修を受講して軍手機械のメンテナンスが可能な職員を1名⇒2名に増やし不良減を目指す。軍手・ウエスの配達ルートと方法の見直しを実施して、収益率をUPさせる。またB型事業の作業種が多いため、収入を確保しつつ選定を実施する。	令和6年 3月	支 援 員	支 援 員	(目標)事業活動収入プラス600,000円(結果)▲570,777円【未達成】 ・月平均工賃：26,348円 ・箱折受託収入平均：83,650円	③クレーム2件発生。受託していた菓子箱折が光ボックスから他社へ変わることになり、3月末で受注がなくなった。 ④軍手・ウエス売上が前年度対比で955,000円減となった。軍手の研修は未受講。軍手の糸材料価格高騰と軍手品質に関するクレーム2件発生。軍手製造時に従事している職員配置が不十分のため不良は減らすことができていない。	定期的に担当者への営業は継続する。また、目標工賃額支給を目指し、作業単価が高い施設外就労にチャレンジする。 空き缶やペットボトルの自主回収(市および業者回収以外)の廃止検討や自主配達の一部外部配送へ移行し、製造現場の人員を確保する。それにより、軍手不良率低下と生産性向上に取り組む。
【生活介護】新規利用者2名確保(現在7名→目標9名) 支援手順書作成	定員の充足 統一した支援の提供 および職員の支援力向上	⑤登録者数9名を目指して、新規利用者を確保。個々の障害特性を理解するため週1回支援会議時間を持ち、チームで支援手順書作成と職員間の情報共有と統一した支援の提供により、利用者が安心して笑顔で過ごせる生活介護を目指す。定期的なプログラム・スペースの検証と見直しの実施。他事業所の生活介護見学・実習の実施。	令和6年 3月	支 援 員	サ ビ 管	【生活介護】(目標)新規利用者2名確保(結果)0名【未達成】 (目標)支援手順書作成(結果)3名作成【一部達成】	⑤部門会議は定期的の実施できたが、支援の統一の提供には至らなかった。全員分の支援手順書作成はできていない。プログラム・スペースの検証も会議時に行ったが、活動内容の充実が必要。	現在の創作活動や個別活動以外に生産活動を取り入れるなどの活動の幅を広げ、事業所の特色を作っていくことで、新規利用者獲得につなげていく。全ての利用者の手順書を作成し、統一した支援をすることで安心して利用できる事業所を作っていく。
【相談支援】契約者数の増 障害児・者プラス各2名獲得	給付費収入増 障害児受入れ参入	⑥特定相談の障害児相談支援事業を4月開始。9月までに他法人への見学、研修を行いながら障害児新規受入れ目標数2名とする。法人内外を問わず、障害者2名獲得。障害児・者契約者数合計66名を目指す。基幹相談・特別支援学校・行政を定期的に訪問して、関係性の構築、利用者希望の調査など把握をする。	令和6年 3月	管 理 者	管 理 者	【相談支援】(目標)障害児・者プラス各2名獲得(結果)障害児2名、障害者4名【達成】	⑥障害児相談支援のサービス等利用計画を立ててモニタリングを行う中で、成長とともに必要な地域の資源を知り、繋がりをもち、相談支援としての知識・技術を積む。	引き続き、市町と基幹・委託相談から新規の集約収集と資源の把握、保護者および事業所と連携できるように関係性を築き、実践を積み、新規契約者獲得を目指す。

	実施状況												スケジュールに対する結果													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①	新規作業獲得のため企業訪問	回収作業見直し①	回収作業見直し先へ訪問及び説明	新規作業獲得のため企業訪問	リサイクル新規作業受託準備・契約	リサイクル新規作業受託	紙線新規作業獲得へ向け訪問	施設外新規作業1種獲得	回収見直し②	回収作業見直し先へ訪問及び説明			①	回収作業見直し①	電線確保に向けて商談	銅線皮むき作業受託開始	紙線皮むき新規作業獲得	庭前前・訪り市生活環境にて新規作業打診	空き缶管理ふるさと納税推進にて商談	回収作業見直し②	電線確保に向けて情報収集	空き缶管理・ふるさと納税との会議開催にて商談			福井紙線訪問・打ち合わせ	
②	利用者1名モニタリング	利用者確保(1名)	相談対応・事業所見学・面談	利用者1名モニタリング	相談対応・事業所見学・面談	実習・実習振り返り	利用者確保(1名)						②	実習1名	利用者1名モニタリング		見学1名	実習1名 見学1名	実習1名	実習振り返り・面談	利用者確保(1名)	利用者1名モニタリング				面談
③	箱折受託先訪問	箱折可能利用者1名育成	箱折受託先訪問	箱折可能利用者1名育成	箱折受託先交渉	箱折2倍受託							③	入出荷時又は電話で担当者に営業	箱折可能利用者1名育成	営業	回転率向上へント	箱折不良発生による対応及び改善	受託先1件見学・交渉	箱折可能利用者1名育成	営業	話し合い				
④	取引先訪問 配達ルート検証・見直し①	取引先訪問 DM発送(30社)	近隣企業訪問(5社)	取引先訪問 配達ルート検証・見直し②	販路拡大(5社)	取引先訪問 配達方法及びルート確定	軍手研修受講1名	軍手研修伝達	軍手生産ライン検証・見直し	不良率低下 工賃確保			④	取引先訪問	配達ルート①の検証・見直し	DM発送(36件)	配達方法・ルート検証・見直し②	販路拡大(1件)	利用者に向けた商品の勉強会	軍手製造ライン検証・見直し・利用者の適正確認	配送方法の見直し検討・配送企業リスト及び通知文作成 利用者による軍手機械不良対応実施					
⑤	支援手順書作成(1名) 他事業所見学及び実習	支援手順書作成(1名) 利用者1名モニタリング	支援手順書作成(1名) 利用者1名モニタリング	研修受講(1名) 支援手順書作成(1名) ベース検証・見直し	相談対応・事業所見学・面談 他事業所見学及び実習	支援手順書作成(1名) 他法人見学	実践研修(1名) 利用者確保(1名)	支援手順書作成(1名) 実践振り返り	手順書とプログラム検証・見直し 利用者1名モニタリング	フォローアップ研修(1名) 相談対応・面談	利用者確保(1名)		⑤	支援手順書の対象者を選定	実習生2名受け入れ	他法人見学	研修見直し・検証・見直し、自立訓練施設・計成・見直し	保護者面談	実践研修(1名)	支援手順書作成(1名)	支援手順書作成(1名)	フォローアップ研修受講(1名)	支援手順書作成(1名)			
⑥	行政・学校訪問 基幹相談訪問	情報収集 他法人見学・実習	訪問・面談・インタビュー	利用者確保(2名)	行政・学校訪問 基幹相談訪問	情報収集	訪問・面談・インタビュー	利用者確保(2名)					⑥	あわら市訪問	基幹・委託相談訪問・他法人見学	障害児相談依頼1件・他法人見学	利用者1名確保・契約	利用児1名確保・契約	情報収集	利用者1名確保・契約	委託・基幹相談訪問	利用児1名確保・契約	情報収集	利用者2名確保・契約	委託相談訪問	

小浜事業所 令和5年度 事業計画書

小浜事業所 令和5年度 事業報告書

令和4年度所長 近者 篤

令和5年度所長 近者 篤

<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める。</li> <li>・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す。</li> </ul>	<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者個々に応じた良質なサービス提供に努める。</li> <li>・利用者、職員共に快適で満足できる施設づくりを目指す。</li> </ul>
---	---

事業計画の内容		具体的手段		責任者	事業報告		
目標	目的	実行計画	期限		目標に対する結果	課題	今後の取り組み
【生活介護】 利用者増 ・平均利用者数 R4年度見込19.0名 R5年度目標20.0名	・平均利用者数を向上する。	①曜日限定の利用者や入浴サービス希望者に面談等で個別対応の充実を図り利用日数増の働きかけを行う。	令和6年3月	正 サビ管 副 支援員 サビ管	【生活介護】 利用者増 ・利用日1名増(4月)、新規1名増(6月)、退所1名減(9月末)、利用日1名増(10月) ・平均利用者数 R5年度 第4四半期 19.1名(実績)	①4月・10月～それぞれ利用者1名が、週1日⇒週2日に利用日数を増。9月末1名退所。本人のニーズ等も踏まえ慎重に粘り強く働きかける必要あり。 ②配置替えにより有資格者3名⇒4名に。これにより配置加算増。介護福祉士取得を推奨するが、今年度希望者がいない状況。 ③入寮希望者や候補者が見つからない。	令和6年度中の新規契約予定者はいない。高等部3年生3名が実習予定なので、次年度に利用いただけるよう努める。 必要な研修への積極的参加。 令和6年度、1名介護福祉士受験希望あり、取得を目指す。
		②利用者の満足度向上と職員の資質向上を図る。また、有資格者配置により、より質の高い支援体制とする。(有資格者3名⇒4名/9名中)	令和5年4月				
【共同生活援助】 利用者確保 6名⇒7名	・給付費の安定を図る。 ・将来計画を立案する。	③既存利用者や他法人利用者に、グループホーム入寮希望者がいないか情報収集し、寮生1名確保を目指す。	令和5年9月	主任 サビ管	【共同生活援助】 利用者確保 R5年度 第4四半期 6名	④計画案作成中。検討事項が多岐に渡り、なかなか作成が進んでいない。	コアメンバーでの打ち合わせを重ね、順次作成を進める。
		④地域の把握や若狭事業所を含めた嶺南全体を考え、将来計画を立案・作成する。	令和5年12月				
【全体】 支援員1名増員 現9名⇒10名体制 (2ヶ年で2名の入替)	・支援体制の強化(充実したサービス提供に繋げる)	⑤地域で知り合いの紹介や他法人など、広く求職者の情報収集を行い求人する。また、現在派遣労働者を充てている部分もあるため、2ヶ年での解消を目指す。	令和5年12月	主任 サビ管	【全体】 支援員1名増員 R5年度 10名体制 (4月人事異動により)	⑤まずは、人事異動により1名増。求人募集では希望者がなかなか現れない。 ⑥視覚支援の強化に取組み中。しかし、視覚支援の有効性が見えない状況も多く、拡充や継続が大事。	ハローワークや学校訪問、求人フェアへの参加を継続すると共に、採用力向上を図る。 継続的な求人活動。 視覚支援や構造化を充実させていく。 施設内環境の安全対策を実施。
		⑥魅力ある施設づくりを目指し、構造化や過ごしやすい空間づくりに努める。また、快適で清潔感を保つため修繕や美化活動に取組む。	令和6年3月				

	スケジュール												スケジュールに対する結果												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	面談	利用頻度増	継続した働きかけ	①	面談 1名利用日数増	新規利用希望者見学受入れ	1名新規利用契約			1名退所	面談 1名利用日数増				次年度 実習状況 開取り	
②	介護福祉士有資格者配置増	個別課題立案	個別目標シート導入	以降継続して提供			研修参加						②	介護福祉士有資格者配置増			以降継続					職員面談 資格取得 希望確認	実務者研 修受講申 込		
③	情報収集面談	情報収集面談	情報収集面談	情報収集面談	体験受入	利用者確保							③	情報収集継続中			以降継続								
④	地域調査	相談員情報共有	行政調査	学校調査	若狭事業所と協議	本部と協議	将来計画立案	計画精査	将来計画作成				④	検討中		関係者打合せ開始	関係者打合せ	関係者打合せ		関係者打合せ					
⑤	支援員1名増配置	ハローワーク訪問	情報収集	情報収集	ハローワーク訪問	情報収集	情報収集の継続(2ヶ年で2名の入替)						⑤	支援員1名増配置	学校挨拶まわり	求人フェア参加		ハローワーク訪問	ハローワーク企業説明会	採用力強化セミナー					
⑥	施設巡回	不良個所改善	環境美化	構造化の取組み	不良個所改善	環境美化	施設巡回	不良個所改善	環境美化	構造化の取組み	不良個所改善	環境美化	⑥	視覚支援 絵カード 作成・充実	環境美化 花壇整備	施設巡回	視覚支援 絵カード 作成	活動スペース 配置替え	安全対策 強化		環境美化 花壇剪定			環境美化 花壇剪定	視覚支援 絵カード 作成・充実

丹南事業所 令和5年度 事業計画書

丹南事業所 令和5年度 事業報告書

令和4年度所長 高木正人

令和5年度所長 松浦 満夫

<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援事業の収支向上に努め、高い工賃を支給できる事業所を目指す。</li> <li>・利用者一人一人の特性に応じた、作業内容、作業時間を提供できる事業所を目指す。</li> </ul>	<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援事業の収支向上に努め、高い工賃を支給できる事業所を目指す。</li> <li>・利用者一人一人の特性に応じた、作業内容、作業時間を提供できる事業所を目指す。</li> </ul>
---	---

事業計画の内容		具体的手段			事業報告					
目標	目的	実行計画	期限	責任者		目標に対する結果	課題	今後の取り組み		
				正	副					
・R4年度 月平均工賃 見込36,000円  ・R5年度 月平均工賃 目標40,000円以上	作業の能力を向上させ、利用者の希望する工賃に近づけていく。	①米の作付面積を約5,000㎡拡大し実施していく。 令和4年度実績、作付面積31,000㎡、収穫量15トン(売価4,500,000円) 令和5年度目標、作付面積36,000㎡、収穫量18トン(売価5,400,000円)	令和5年6月	主任	支援員	【就労継続支援B型】 令和5年度平均工賃 ・目標：40,000円 ・実績：36,734円  令和5年度あきさかり収穫量 ・目標：18トン(売価5,400,000円) ・実績：16.5トン(売価4,950,000円)	①令和4年度のお米は令和5年12月末で完売。令和5年度のお米は令和6年度秋の収穫までの完売をめざす。	・令和5年度のお米(収穫量16.5トン・売価495万円)を令和6年度秋の収穫までに完売するために、販売計画を作成し実行していく。 ・新規の販売先の開拓。		
		②新商品(こめまめようかん)を令和5年4月から販売し、年間売上30万円を目標に、スーパーや道の駅、サービスエリアなどに営業し、販路拡大を行う。	令和6年3月	主任	支援員				②先行販売したが、菌検査で芽胞菌が原因と判明した。根本的に製造過程からの見直しが必要だが、製造経験者が退職・異動で不在のため、取り組むことができなかった。	・関係機関に相談しながら製造過程を一から見直す。
		③作業ごとに手順書を作成し、障がいの重い方でも取り組める作業場とする。また、利用者の特性に応じて作業を提供していく。	令和5年9月	主任	支援員				③利用者の特性に応じた作業の精査が必要である。手順書のパネル掲示(画像・図式)が不十分だった。	・利用者の特性に応じた作業アセスメント表を早めに取り掛かる。 ・手順書、掲示物、掲示の仕方を改善。
作業種を受託作業中心にする。 (パン・クッキー縮小)	全利用者が長期的に安心して通所でできる事業所を目指す。	④作業内容、作業量に応じて、分配される工賃の目安額を見える化する。また、作業を選択する上での判断材料の一つとなるようにする。	令和6年3月	サビ管	支援員	・パン・クッキーの新規販売先を4件増やす。 ・軽作業の新規受託先としてお試して作業を2件行ったが、新規受託の作業には結び付かなかった。	④職員の退職者がためたために作業内容や作業量による工賃の目安額を見える化までできなかった。	・新規受託作業の開拓。 ・少しでも単価の高い作業種を探していく。		
		⑤受託作業を新規で2件以上の獲得を目指し、食品加工事業(パン・クッキー)の縮小を検討する。また、あわせて施設外就労の導入を検討する。	令和6年3月	サビ管	支援員				⑤新規受託先よりお試しの作業を頂いて試行してみたが、職員での検品作業が増えるだけであったため受託には繋がらなかった。	・新規の販売先と受託先の開拓。

スケジュール													スケジュールに対する結果															
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
①	→												①	→			→			→			→					
	作付面積5,000㎡増													作付面積5,000㎡増			水管理・除草→収穫			草刈り・田おこし			地主と来年度の打合せ					
②	→			→			→			→	→		②	→			→			→			→					
	商品化・営業			販売・分析・改良			営業・販売・分析・改良			改善会議	販売・分析・改良			商品化の準備			販売・分析・改良			販売先の営業			製造工程の見直し					
③	→			→									③	→			→			→			→					
	作業の改善点調査			手順書作成 実行・改善										作業の改善点調査			手順書の作成			手順書の作成			手順書の作成					
④	→			→			→			→	→		④	→			→			→			→					
	工賃分配額調査			工賃時給目安表作成			掲示・配布			振り返り・修正				工賃UPのための収益確保			工賃時給目安表の作成			工賃時給目安表の作成			工賃時給目安表の作成					
⑤	→			→			→			→	→		⑤	→			→			→			→					
	企業への営業			パン販売先 検討会議			企業への営業			来年度の パン販売先選定			新規受託作業開始				企業への営業			既販売先の売上強化			既販売先の売上強化			新規販売先・受託先の開拓		